作成日　2026/9/11

安全データシート

1. 化学品および会社情報

化学品の名称	ビス(2-スルフィドピリジン-1-オラト)銅 Bis(2-sulfidopyridine-1-olato)copper
製品名	銅ピリチオン
製品コード	F-016937
SDS 整理番号	ZC26075-01
会社名称	善ケミカル株式会社
住所	東京都台東区台東 2-30-2 善ビル 3 階
電話番号	03-3839-5861
FAX 番号	03-3839-5877
緊急連絡電話番号	03-3839-5861
推奨用途	工業用防腐・防黴剤、船底塗料防汚剤、漁網防汚剤、海洋構造物防汚剤

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性		該当区分なし
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	区分 4
	急性毒性(吸入)	区分 2
	皮膚腐食性/刺激性	区分 2
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分 1
	皮膚感作性	区分 1
環境に対する有害性	水生環境有害性 短期(急性)	区分 1
	水生環境有害性 長期(慢性)	区分 1

注) 上記の GHS 分類で区分の記載がない危険有害性項目については「分類対象外」、「区分に該当しない」または「分類できない」に該当する。

GHS ラベル要素

絵表示またはシンボル



注意喚起語　危険

危険有害性情報

H302	飲み込むと有害
H315	皮膚刺激
H317	アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
H318	重篤な眼の損傷
H330	吸入すると生命に危険
H400	水生生物に非常に強い毒性
H410	長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性

注意書き

【安全対策】

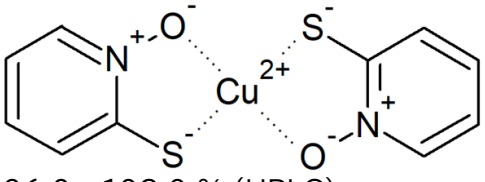
P260	粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
P264+P265	取扱後は手や顔などをよく洗うこと。眼を触らないこと。
P270	この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。
P271	屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
P272	汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
P273	環境への放出を避けること。
P280	保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
P284	換気が不十分な場合は呼吸用保護具を着用すること。

【応急措置】

P301+P317	飲み込んだ場合: 医療処置を受けること。
P330	口をすすぐこと。
P302+P352	皮膚に付着した場合: 多量の水で洗うこと。

P333+P317	皮膚刺激または発疹が生じた場合: 医療処置を受けること。
P362+P364	汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
P304+P340	吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
P316	すぐに救急の医療処置を受けること。
P305+P354+P338	眼に入った場合: すぐに水で数分間洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
P317	医療処置を受けること。
P391	漏出物を回収すること。
【保管】	
P403+P233	換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
P405	施錠して保管すること。
【廃棄】	
P501	内容物/容器を国/都道府県/市町村の規制に従って廃棄すること。
GHS 分類に関係しないまたは GHS で扱われない他の危険有害性	本品の粉じんが拡散した場合、爆発可能性のある粉じん-空気混合物を形成する可能性がある。

3. 組成および成分情報

単一物質・混合物の区別	単一物質
化学名または一般名	ビス(2-スルフィドピリジン-1-オラト)銅 Bis(2-sulfidopyridine-1-olato)copper
慣用名または別名	ビス(1-ヒドロキシ-1H-ピリジン-2-チオナト-O,S)銅 ビス(2-ピリジンチオール-1-オキシド)銅 ビス[2-チオキソ-κS-ピリジン-1(2H)-オラト-κO]銅 ピリチオン銅 銅 2-ピリジンチオ-1-オキシド 銅 2-ピリジンチオール-1-オキシド 銅 ビス(2-ピリジンチオール-1-オキシド) 銅ピリチオン Bis(1-hydroxy-1H-pyridine-2-thionato-O,S)copper Bis(2-pyridinethiol-1-oxide)copper Bis[2-thioxo-κS-pyridin-1(2H)-olato-κO]copper Copper 2-pyridinethio-1-oxide Copper 2-pyridinethiol-1-oxide Copper bis(2-pyridinethiol-1-oxide) Copper pyrithione Copper, bis[1-(hydroxy-κO)-2(1H)-pyridinethionato-κS2]-
CAS RN®	14915-37-8
分子式(分子量)	C10H8CuN2O2S2 (315.9)
構造式または示性式	
成分および濃度または濃度範囲	96.0 - 102.0 % (HPLC)
官報公示整理番号	
化審法	(5)-6271
安衛法	1-(1)-523

4. 応急措置

一般的な注意	ばく露またはその懸念がある場合はただちに医療処置を受けること。 医療処置を受けるときは医師にこの SDS を見せること。
吸入した場合	被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 呼吸をしていない場合は人工呼吸を施すこと。ただし口対口呼吸法は避け、適切な器具を用いておこなうこと。 すぐに救急の医療処置を受けること。
皮膚に付着した場合	石けんと多量の水で 15 分以上洗うこと。

	皮膚刺激または発疹が生じた場合は医療処置を受けること。 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
眼に入った場合	すぐに大量の水で 15 分以上洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 まぶたの裏なども十分に洗浄すること。 医療処置を受けること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。 無理に吐かせないこと。 被災者に意識のない場合は口に何も与えないこと。 医療処置を受けること。
急性症状および遅発性症状の最も重要な徴候症状	皮膚刺激、重篤な眼の損傷
応急措置をする者の保護に必要な注意事項	適切な保護具を着用すること。

5. 火災時の措置

適切な消火剤	水噴霧、耐アルコール性泡消火剤、粉末消火剤、砂、二酸化炭素
使ってはならない消火剤	情報なし
火災時の特有の危険有害性	火災時に刺激性、腐食性および毒性のあるガス/蒸気(窒素酸化物、硫黄酸化物)を発生するおそれがある。 煙や蒸気などの吸入を避けること。
特有の消火方法	関係者以外は安全な場所に退去させること。 消火作業は風上の安全な地点から行い、周囲の状況に応じた適切な消火方法を用いること。 周辺火災の際は危険でなければ火災区域から容器を移動すること。 容器が熱にさらされているときは、移動させず、散水して容器を冷却すること。 安全に対処できるならば着火源や、火災を増大させるおそれのあるものを取り除くこと。 消火後も大量の水を用いて十分に容器を冷却すること。 消火後の残骸や消火に用いた消火剤などは河川や排水溝などに流れ込まないように回収し、関係法規に従って廃棄すること。
消火活動を行う者の特別な保護具および予防措置	消火作業の際は必ず全身型の保護具(耐熱性)、保護手袋、保護眼鏡、マスクや自給式呼吸器(陽圧式)などを着用すること。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置	個人用保護具(保護手袋、保護眼鏡、マスクなど)を着用すること。 漏洩物に触れたりその中を歩いたりしないこと。眼、皮膚への接触や、粉じん、ガス、蒸気などの吸入も避けること。 粉じんの発生を避けること。 漏出した場所の周辺にロープを張るなどして隔離し、関係者以外の立入りを禁止すること。 風下の人を退避させること。 十分に換気を行うこと。 低地から離れること。 漏出場所の風上から作業すること。
環境に対する注意事項	環境中に放出してはならない。製品が土壌を汚染したり、河川や排水路などに流入しないように注意すること。 公共水域に流入した場合は関係機関に通報すること。
回収・中和	粉じんの飛散に注意しながら掃き集め/すくいとり、密閉容器に回収すること。 必要に応じて電気掃除機(真空クリーナー)、ほうきなどを使用して回収すること。 付着物、回収物などは関係法規に基づき速やかに処分すること。
封じ込めおよび浄化の方法および機材	漏出物を取扱うときに用いるすべての設備は防爆構造とし、静電気対策をほどこすこと。 危険でなければ漏れを止めること。 漏出物の回収後は現場を清掃すること。
二次災害の防止策	すべての発火源を速やかに取除くこと(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。

着火した場合に備えて消火用器材を準備すること。
静電気/火花を発生しない安全な用具を使用すること。
床に漏れた状態で放置すると、滑り易くスリップ事故の原因となるため注意すること。
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐこと。

7. 取扱いおよび保管上の注意

取扱い

技術的対策	『8.ばく露防止および保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用すること。
局所排気・全体換気	屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。 粉じん/蒸気/エアロゾルが発生する場合には、換気、局所排気を用いること。
安全取扱注意事項	使用前にすべての安全説明書を入手し、読み、従うこと。 作業員は化学品の取扱いについての適切な訓練を受けていること。 防爆型の電気機器/換気装置/照明機器を使用すること。 火花を発生させない工具を使用すること。 漏れ、あふれ、飛散しないよう注意し、みだりに粉じん/蒸気を発生させないこと。 本品の粉じんが拡散した場合、爆発可能性のある粉じん-空気混合物を形成する可能性がある。 できれば密閉系で取扱うこと。 万一 漏れ出たときのために処理装置などを準備しておくこと。 容器を転倒させる、落下させる、衝撃を加える、または引きずるなどの粗暴な取扱いをしないこと。 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止すること。炎や高温のものから遠ざけること。 万が一火災が発生したときのために適切な消火設備/消火剤を準備しておくこと。 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。 汚染された衣類を再利用する場合は洗濯すること。 空の容器でも内部に製品が残存している場合もあるので取扱いには注意すること。 使用していないときは容器を密閉しておくこと。 取扱い場所には関係者以外の立ち入りを禁止すること。
接触回避	適切な保護具を着用すること。 粉じん、ガス、ミスト、蒸気、スプレーなどを吸入しないこと。 皮膚や衣類との接触を避けること。 眼に入れないこと。 口に入れないこと。 この製品と身体とのあらゆる接触を避けること。
衛生対策	この製品を使用するときに飲食または喫煙をしないこと。 取扱い後は手や顔など、露出した部分をよく洗い、うがいをすること。 作業着や保護具は休憩所に持ち込まないこと。

保管

技術的対策	情報なし
混触危険物質	『10.安定性および反応性』を参照。
安全な保管条件	容器を密閉し、正しい向きに立てて保管すること。 一度開封した製品を保管する場合は注意深く再封すること。 乾燥していて換気の良い冷暗所で保管すること。 直射日光や火気、熱、スパークを避け、また混触危険物質、食料などから離して保管すること。 容器を物理的な衝撃から保護する措置を講ずること。 製品の漏れがないか定期的に確認をすること。 万一 漏出したときに備えて必要な処理剤、処理装置などを準備しておくこと。 火災に備えて保管場所には消火剤などを備えておくこと。 施錠して保管すること。
安全な容器包装材料	ガラス

8. ばく露防止および保護措置

許容濃度等	
ACGIH	TWA: 1 mg/m3 (Cu dust and mist)
NIOSH	IDLH: 100 mg/m3 REL: 1 mg/m3 (TWA)
設備対策	この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置し、その位置を明瞭に表示すること。 防爆型の電気・換気・照明機器、装置、設備を使用すること。 静電気放電や帯電に対する予防措置を講ずること。 取扱い場所の近くには、高温、発火源となるものが置かれないような設備とすること。 ばく露を防止するため、装置、機器の密閉化あるいは局所排気装置を設置すること。 排気装置を付けて、蒸気などが滞留しないようにすること。 製品に作業者が直接触れたり、ばく露したりしないような配慮をすること。 非常事態に備えて避難動線を確保しておくこと。
保護具	
一般	保護具は使用前にその状態を毎回確認し、傷み・破れその他異常などのないものを使用すること。 必要な保護具は、関連規格に適合したものを選定すること。
呼吸用保護具	空気呼吸器、防じんマスクなど。
手の保護具	不浸透性の保護手袋。使用後に脱ぐときはその外側が皮膚に直に触れないように注意すること。
眼、顔面の保護具	保護ゴーグル、保護眼鏡、保護面。
皮膚および身体の保護具	不浸透性の保護衣。状況に応じ、保護長靴。現場にて取扱う量に応じた適切な保護具を選定すること。
衛生対策	適切な労働衛生および安全基準に従って取り扱うこと。 この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。 取扱い後は手や顔など、露出した部分を石けんと水でよく洗い、うがいをすること。 保護具を脱ぐときは、保護具に付着した製品に触れないよう十分に注意すること。 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。 汚染された作業衣を再利用する場合は洗濯すること。

9. 物理的および化学的性質

物理状態	固体
形状	粉末
色	オリーブグリーン
臭い	特異臭
融点/凝固点	204 - 250 ℃
沸点または初留点および沸点範囲	データなし
可燃性	データなし
爆発下限界および爆発上限界/可燃限界	データなし
引火点	データなし
自然発火点	データなし
分解温度	約 280 ℃
pH	データなし
動粘性率	データなし
溶解度	
水	0.060 mg/L (20 ℃)
その他の溶剤	可溶: ジメチルホルムアミド、硝酸 不溶: メタノール
n-オクタノール/水分配係数 (log 値)	2.44 (21 ℃, pH 7.0)
蒸気圧	3.5 x 10^(-7) Pa (20 ℃)
密度および/または相対密度	1.86 (20 ℃), 1.8106 (22.5 ℃)

相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし

10. 安定性および反応性

反応性	塩素化剤と反応する。
化学的安定性	光により変質するおそれがある。 海水中では加水分解や光分解を受けて速やかに分解する。
危険有害反応可能性	本品の粉じんが拡散した場合、爆発可能性のある粉じん-空気混合物を形成する可能性がある。
避けるべき条件	加熱、高温、裸火、直射日光、混触危険物質との接触
混触危険物質	強酸化剤、塩素化剤
危険有害な分解生成物	一酸化炭素、二酸化炭素、窒素酸化物、硫黄酸化物、銅酸化物

11. 有害性情報

急性毒性	
経口	LD50(ラット-経口): 1,075 mg/kg bw
経皮	LD50(ウサギ-経皮): >2,000 mg/kg
吸入	LC50(ラット-吸入(粉じんおよびミスト)): 0.07 mg/L/4h
皮膚腐食性/刺激性	明確なデータはないが皮膚に対して GHS 区分 2 相当の刺激性を有するとの情報がある。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	明確なデータはないが皮膚に対して GHS 区分 1 相当の腐食性を有するとの情報がある。
呼吸器感作性または皮膚感作性	日本産業衛生学会で銅および銅化合物に対し、感作性物質(皮膚: 2 群)(産衛学会勧告(2011))としている。
生殖細胞変異原性	変異原性は明確には確認されていない。
発がん性	IARC によってヒトに対する発がん性の可能性がある、または発がん性があると確認された成分は本品に 0.1 %以上は含まれていない。
生殖毒性	情報なし
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	情報なし
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	情報なし
誤えん有害性	情報なし

12. 環境影響情報

生態毒性	
魚類	(ファットヘッドミノー) LC50: 4.3 μg/L/96h, 初期生活段階における成長阻害に基づく NOEC: 0.001 mg/L/32d
甲殻類	(ミジンコ) EC50: 22 μg/L/48h
藻類	(淡水緑藻) EC50: 31.78 μg/L/5d
残留性・分解性	水に不溶なことから残留性はあると考えられる。
生物蓄積性	BCF: 7.7 L/kg (コイ)
土壌中の移動性	
n-オクタノール・水分配係数	2.84
土壌吸着係数(Koc)	5,528 L/kg
ヘンリー定数	1.8 x 10^(-3) Pa・m3/mol
その他	水に不溶なことから土壌中の移動性はないと考えられる。
オゾン層への有害性	当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。 焼却処理をする場合は適当な可燃性溶剤に溶解または混合し、アフターバーナーおよびスクラバーを備えた設備で焼却すること。 廃棄に際しては適切な保護具を着用すること。 廃棄の前に可能な限り無害化、安定化および中和などの処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にすること。 自らによる廃棄が難しい場合、都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処

	理すること。 廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託すること。
汚染容器および包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、またはリサイクルに関する情報	容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行うこと。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制

国連番号	2811
国連輸送名	その他の毒物(有機物)(固体)(他の危険性を有しないもの) TOXIC SOLID, ORGANIC, N.O.S.
国連分類	CLASS 6.1
容器等級	III

国内規制

陸上規制情報	非該当
海上規制情報	船舶安全法の規制に従う。
航空規制情報	航空法の規制に従う。
輸送または輸送手段に関する特別の安全対策	輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行うこと。 必要に応じて緩衝材なども用いて、輸送時の製品への衝撃が最小限になるようにつとめること。 重量物を上積みしないこと。 事前に通行ルートの十分な確認をし、輸送計画をしっかり立て、無理のない安全な輸送をこころがけること。 運搬中に製品が著しく漏れるなど災害が発生するおそれがある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずるとともに、もよりの消防機関その他の関係機関に通報すること。

15. 適用法令

化審法	優先評価化学物質(法第2条第5項、平成23年4月1日告示第7号)【ビス(2－スルフィドピリジン－1－オラト)銅】
化学物質排出把握管理促進法	第1種指定化学物質(法第2条第2項、施行令第1条別表第1)【ビス(2－スルフィドピリジン－1－オラト)銅】
労働安全衛生法	名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第1号、第3号別表第9)【銅及びその化合物】 名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2第1項、施行令第18条の2第1号、第3号別表第9)【銅及びその化合物】 皮膚等障害化学物質等・皮膚刺激性有害物質(安衛則第594条の2第1項、令和4年5月31日基発0531第9号、令和7年11月18日告示第301号・第1号、厚生労働省HP皮膚等障害化学物質の一覧)【ビス(2－スルフィドピリジン－1－オラト)銅】
毒物及び劇物取締法	非該当
大気汚染防止法	有害大気汚染物質に該当する可能性がある物質(法第2条第16項、平成22年10月15日中央環境審議会第9次答申・別表1)
水質汚濁防止法	指定物質(法第2条第4項、施行令第3条の3)
下水道法	水質基準(法第12条の2第1項、施行令第9条の4)
水道法	水質基準(法第4条第2項、平成15年5月30日省令第101号)
航空法	毒物類・毒物(施行規則第194条危険物告示別表第1)
船舶安全法	毒物類・毒物(危規則第2条、第3条危険物告示別表第1)
外国為替及び外国貿易法	輸出許可貨物・補完品目(キャッチオール規制)(法第48条第1項、輸出令第1条別表第1の16の項(2))

16. その他の情報

主な参考文献	安全データシート "ビス(2-スルフィドピリジン-1-オラト)銅", 職場の安全サイト

2012/3/30 作成版
経済産業省 優先評価化学物質のリスク評価(一次) 生態影響に係る評価Ⅱ 物理化学的性状等の詳細資料 ビス(2ースルフィドピリジンー1ーオラト)銅 平成 30 年 3 月版
web データベース "ezCRIC+" (2026/9/4 アクセス)
ウェブサイト "PubChem" (2026/9/4 アクセス)
安全データシート "カッパーピリチオン標準品", 富士フイルム和光純薬株式会社 2024/2/22 改訂版
SAFETY DATA SHEET "Copper(II) pyrithione", Fisher Scientific Company, 2025/12/20 改訂版

記載内容の取扱いについて

記載内容は、現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、物理化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。注意事項は通常の取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いの場合には、新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用ください。

改訂履歴	2026/9/11	作成